広島に行って感じた事

南小学校　六年　鯨井　勇斗

原子爆弾は、一九四五年８月６日午前８時１５分に広島県広島市に落とされました。その日アメリカ軍は、Ｂ２９で「リトル・ボーイ」と呼ばれる直径３ｍの原子爆弾を落とし、爆弾によって約１４万人の人が亡くなり、今現在も約十万人が後遺症や白血病などで苦しんでいます。

また、未だに約五千人の遺骨を引き取る遺族が見つかっていないとのことです。

ぼくは、２日間で３つの場所を見て回りました。

１つめは、原爆ドームです。

原爆ドームはもともと「広島県産業奨励館」として広島県の特産物を売っているところだったそうですが、戦争がはげしくなるにつれて品物が手に入らなくなり、燃料屋に乗りかえたそうです。そして、原爆が落とされたときに奇跡的に残った建物ということを学びま

20 × 20

した。

ぼくは、原爆ドームを見て、原爆は、人が作ったとは思えない兵器だなと思いました。

２つ目は、平和記念公園です。その中でも印象に残ったものは、原爆の子の像です。

原爆の子の像は、原爆症で亡くなった禎子さんの死に衝撃を受けた同級生たちが亡くなったすべての子どもたちのために慰霊碑を作ろうと全国へ呼びかけたことがきっかけで作られたそうです。それから子どもたちによる募金活動が始まり、全国三千校余りの生徒と、イギリスなどの世界各地から寄付が贈られ、像が完成しました。

禎子さんは、被爆直後は勉強やスポーツにはげんでいたそうですが、１０年経ってから原爆症による白血病で亡くなったそうです。

ぼくは、あらためて勉強やスポーツが出来ることは当たり前ではないということを感じました。

３つ目は、平和記念資料館です。

20 × 20

平和記念資料館には、被爆する前の広島市と、被爆した後の広島市が見くらべられるように、写真がならべられ、当時の服なども展示されていました。

ぼくは、原子爆弾を「悪魔の兵器」だと思いました。

なぜなら、無差別に人を殺し、やっとの思いで生き残った人も放射能などの人体に影響のあるものをふくんだ黒い雨にうたれて亡くなった人も多かったと聞いたからです。

それにたいしてぼくは、とにかくおそろしいと思いました。

今の日本は平和です。「もう決して戦争をしません」と誓った、憲法第九条によって守られているからです。

しかし、世界に目を向ければ、未だに戦争や紛争は起きています。

日本は、「リトル・ボーイ」によって悲しい歴史をたどりました。

平和を守るために、わたしたちはぜったい

に気をぬいてはなりません。

戦争がはじまる気配がないか、だれかがつぜん国を支配しようとしてはいないか、いつも気をつけなければなりません。

いざ戦争や紛争がはじまると人の命の重さは、かえりみられなくなります。兵士だけではなく一般の人の命も軽んじられます。

今回の広島派遣を経て僕は自分で平和を守るためにどうしたら良いか考えました。

まず、僕が出来る事として、今回の派遣で感じた経験を、家族や友達に話そうと思いました。実際に目で見て触れて感じた広島当時の事を話すことにより少しでも戦争の悲惨さや、哀しさがみんなに伝わり、平和について考えてくれるきっかけになればよいと思いました。僕は、今の日常に感謝し、これからもどうしたら戦争はなくなるかについて考えていきたいです。

20 × 20